

社会福祉法人 河北会

平成30年度 事業報告書

(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

特別養護老人ホーム さくらぎの里

さくらぎの里短期入所生活介護事業所

さくらぎの里居宅介護支援事業所

グループホーム さくらぎ

平成30年度事業報告書（概要）

1. はじめに

平成30年度は、新中期経営計画の初年度で、これまでの運営等の見直しを図るとともに前年度までの取組みを継続させ、中期経営計画及び単年度事業計画に基づき、法人全体で把握し改善に向けて取組みました。

「中期経営計画」の平成30年度重点項目に対する実績は、前年度から全職員に目標達成への意識付けを周知徹底したものの、体制等の問題により目標を達成することが出来ない項目がありました。しかし、利用者により良いサービスを提供すべく職員の資質向上に重点を置き、法人全体として実施する委員会主体の施設内研修の更なる充実、外部研修への職員の積極的な参加促進等を行い、職員のケアに対する意識改革、利用者個々に応じた質の高い個別的対応ケアの実現を目指し活動しました。

地域福祉の活動として、経済的支援や各種制度・サービスの利用支援に繋げる目的である社会福祉法人協働による地域公益活動「I W A T E・あんしんサポート事業」で当法人の職員が相談員として活動し、生活困窮世帯等に対し3件の支援を実施するとともに、松園地区地域協働推進委員会保健・福祉部会主催の「松園地区わくわく食事会」に職員を派遣しました。今後も地域の活性化に寄与し、地域に密着した施設として受入れられるよう活動を継続していきます。

今後も中期経営計画に基づき、安定した経営基盤を確立すべく、法人経営、施設運営に係る重点事項及び各事業所における取組みについて組織一体となり事業を推進していきます。

平成30年度事業報告に当たり、施設の利用者並びにご家族の皆様をはじめ、関係者、地域の皆様から温かいご支援、ご協力を賜りましたことに心から感謝申し上げます。

<法人の運営>

1. 利用稼働率について

平成30年度の事業運営について、各事業所の平均利用者数では、特養さくらぎの里では、利用者の重度ゆえの長期入院による退所者があったものの、新規入所者確保に向け注力した結果、年間平均稼働率で99%と前年対比プラス0.4%増の実績となった。

さくらぎの里短期入所生活介護では、他事業所への空床情報の提供等稼働率の維持に向け活動をしたものの、稼働率79.4%と前年対比マイナス1.4%の減となった。

さくらぎの里居宅介護支援事業所では、特養への再入所による新規件数が多く、特

養への移行による解約、また死亡等による解約があったものの、地域包括支援センター、在宅介護支援センター、病院等への訪問を重ね、月平均件数29.5件と前年度上回る実績となった。また地域包括センター等との情報交換を密にした結果、介護予防で11件の新規先確保につながった。

グループホームさくらぎについては通年での稼働となり、入院等により6名の退所者があったものの、新規入所までの空床期間を極力減らすことで、ほぼ満床を維持し平均稼働率99.2%の実績となった。

※上記内容の根拠資料については、利用者状況【別紙1】のとおり

2. 決算内容について（拠点区分毎）

(1) 特別養護老人ホームさくらぎの里

事業活動計算書での介護保険事業収益において、特養では前年対比11.2%増、居宅は65.7%増、短期入所で48.3%減であったが、総体では2.5%増の303,797千円と前年対比7,374千円の増収となった。当期活動増減差額では、事業費ではエアコン入替工事と節電の取り組みを実施した結果、水道光熱費で前年比1.6%減、事務費では介護職員の人員確保のための人材紹介手数料の負担等により、前年対比26.3%の増加し、総体では22,711千円の計上となり、前年対比28.4%の減益となった。

(2) グループホームさくらぎ

平成30年度はほぼ満床での稼働となったことから、介護保険事業収益で79,845千円の実績となった。当期活動増減差額については、派遣職員から直接雇用への転用等により人件費負担の軽減を図ったものの、2,631千円の計上となり前年度対比37.4%の減益となった。

以上より、法人全体では介護保険事業収益で383,643千円（前年対比74,053千円増）と前年対比2%の増収。当期活動増減差額25,342千円（前年対比10,545千円減）と前年対比29.4%の減益となった。

3. 理事会・評議員会の開催状況

(1) 理事会の開催状況

回数	月 日	場 所	出席者	議 案
1	30.4.18	3階地域交流センター	理事6名 欠席0名 監事2名	議案第1号 平成30年度介護報酬改定に伴う各事業所の「重要事項説明書」の一部改正について
2	30.6.6	3階地域交流センター	理事6名 欠席0名 監事2名	報告第1号 理事長職務執行状況

				議案第1号 平成29年度社会福祉法人河北会事業報告
				議案第2号 平成29年度社会福祉法人河北会決算報告(計算関係目録の承認)について
				議案第3号 平成30年度社会福祉法人河北会定時評議員会の日時・場所・議題等の決定について
3	30.7.20	3階地域交流センター	理事6名 欠席0名 監事2名	議案第1号 特別養護老人ホームさくらぎの里冷暖房設備の故障に伴う更新工事計画について
				議案第2号 特別養護老人ホームさくらぎの里冷暖房設備更新工事に係る施工業者に入札方法及び入札業者の選定並びに落札業者との工事請負契約の締結について
				議案第3号 特別養護老人ホームさくらぎの里冷暖房設備更新工事の資金調達に伴う施設整備積立金の取崩しについて
				議案第4号 平成30年度社会福祉法人河北会資金収支予算(第1次補正)について
				議案第5号 平成30年度社会福祉法人河北会第2回評議員会の日時・場所・議題等の決定について
4	30.10.12	3階地域交流センター	理事6名 欠席0名 監事2名	報告第1号 理事長職務執行状況報告
				議案第1号 平成30年度社会福祉法人指導監査実施結果に伴う是正事項改善報告書の提出について
				議案第2号 経理規程の一部改正(案)について
				議案第3号 評議員選任解任委員の欠員の補充について
				議案第4号 平成30年度介護報酬改定に伴う各事業所の「契約書・重要事項説明書」の一部改正について

5	31.1.30	3階地域交流センター	理事 6名 欠席 0名 監事 2名	報告第 1 号 理事長職務執行状況報告
				議案第 1 号 平成 30 年度社会福祉法人河北会資金収支(第 2 次補正)について
				議案第 2 号 定款細則の制定について
				議案第 3 号 育児・介護休業等に関する規程の一部改正について
				議案第 4 号 さくらぎの里居宅介護支援事業所の運営規程の一部改正について
				議案第 5 号 社会福祉法人河北会第 3 回評議員会の日時・場所・議題等の決定について
6	31.3.20	3階地域交流センター	理事 6名 欠席 0名 監事 2名	議案第 1 号 平成 31 年度社会福祉法人河北会事業計画(案)について
				議案第 2 号 平成 31 年度社会福祉法人河北会予算(案)について
				議案第 3 号 平成 31 年度社会福祉法人河北会積立金計上について
				議案第 4 号 社会福祉法人河北会第 3 回評議員会の日時・場所・議題等の決定について

(2) 評議員会の開催状況

回数	月 日	場 所	出席者	議 案
1	30.6.21	3 階地域交流センター	評議員 7 名 欠席 0 名 監事 2 名	報告第 1 号 平成 29 年度社会福祉法人河北会事業報告について
				議案第 2 号 社会福祉法人河北会決算報告(貸借対照表、資金収支計算書及び事業活動計画書、財産目録の承

				認) について
2	30.7.20	3 階地域交流センター	評議員 6 名 欠席 1 名 監事 2 名	議案第 1 号 特別養護老人ホームさくらぎの里冷暖房設備の故障に伴う更新工事計画について
				議案第 2 号 特別養護老人ホームさくらぎの里冷暖房設備更新工事に係る施工業者に入札方法及び入札業者の選定並びに落札業者との工事請負契約の締結について
				議案第 3 号 特別養護老人ホームさくらぎの里冷暖房設備更新工事の資金調達に伴う施設整備積立金の取崩しについて
				議案第 4 号 平成 30 年度社会福祉法人河北会資金収支予算(第 1 次補正) について
3	31.2.15	3 階地域交流センター	評議員 7 名 理事 1 名 欠席 0 名 監事 2 名	議案第 1 号 社会福祉法人河北会資金収支予算(第 2 次補正) について
4	31.3.27	3 階地域交流センター	評議員 6 名 欠席 1 名 監事 2 名	議案第 1 号 平成 31 年度社会福祉法人河北会事業計画(案) について
				議案第 2 号 平成 31 年度社会福祉法人河北会予算(案) について
				議案第 3 号 平成 31 年度社会福祉法人河北会積立金計上について

3. 出納調査

監査報告	監査期間	報告者	所見ほか
平成 30 年 8 月 27 日	平成 30 年 4 月 1 日～平成 30 年 6 月 30 日	2 名	試算表・総勘定元帳等 指摘事項なし
平成 30 年 12 月 12 日	平成 30 年 7 月 1 日～平成 30 年 9 月 30 日	2 名	試算表・総勘定元帳等 指摘事項なし
令和元年 5 月 8 日	平成 30 年 10 月 1 日～平成 30 年 12 月 31 日 平成 31 年 1 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日	2 名	試算表・総勘定元帳等 指摘事項なし

4. 監事監査報告

監査報告	監査期間	報告者	所見ほか
令和元年5月8日	平成30年4月1日～平成31年3月31日	2名	平成30年度計算書類・附属明細書・財産目録等 指摘事項なし

5. 入所判定委員会

入所に関して透明性、公平性を確保するため、入所判定委員会を下記の計4回開催し、19名の利用者が入所した（内入所後、入院等により7名退所）。

開催数	開催日	入所者数
第1回	H30.4.6	9名
第2回	H30.9.6	5名
第3回	H30.10.11	7名
第4回	H31.3.11	5名

6. 苦情対応委員会

利用者の権利を擁護し、適切な施設運営を行うため、苦情受付窓口担当者及び苦情解決責任者を引続き配置し、平成30年9月16日、平成31年2月15日の計2回開催した。苦情件数については、年間通じて特養、短期入所、居宅介護支援事業所ゼロ、グループホーム1件の計1件の苦情があった。

苦情内容は下記のとおりである。

事業所別	件数	苦情内容
特養さくらぎの里	0	なし
さくらぎの里短期入所	0	なし
さくらぎの里居宅介護	0	なし
グループホームさくらぎ	1	消耗品（オムツ）の使用状況の報告について

苦情は説明不足によるものが要因であった。苦情に対し全職員が真摯に受け止め、改善に向けて取組むとともに苦情に対する改善策について、委員会を通し全体で意識を統一し支援に努めることとした。

7. 人材確保・継続雇用について

人材確保については介護業界全体の課題となっているが、当法人では人材確保の具体的手段として、合同就職説明会への参加、ハローワーク・介護人材センターの求人での継続的募集、福祉系の学校訪問、介護労働安定センターの求人募集等実習生の受入を積極的に実施し、介護労働安定センターから1名常勤の介護員を採用した。ま

た施設職員として特養で介護員7名、グループホームで看護師1名、介護員6名を採用に伴い人員が充足したが、その後、介護員が退職したことにより人材確保が必要となり、人材紹介会社から介護員を確保したことで、紹介手数料の負担につながった。

8. 職員の資格取得について

平成30年度は、特養の介護員3名が、医療的ケア第一号、同第二号研修修了し資格を取得した。

9. 介護職員処遇改善交付金

- (1) 平成30年度も引続き介護職員の処遇改善を目的とし岩手県に処遇改善計画を申請、承諾を得て実施し併せて盛岡市へ処遇改善体制加算を申請し、受理された。
- (2) 賃金改善期間内の賃金改善額については、処遇改善交付金の受給総額を上回る額を介護職員全員に支給し賃金改善を行った。

<特別養護老人ホームさくらぎの里、短期入所生活介護事業所の運営>

1. 施設整備の状況

(1) 修繕について

平成30年度は、補助金を申請し冷暖房空調設備全面交換を行った。また、厨房機器、給排水設備の経年劣化、特殊浴槽の部品生産廃止に伴い、次年度に特殊浴槽交換と外壁、厨房機器、給排水設備の修繕を行う予定。

※整備状況の詳細については、【別紙2】の一覧表のとおり

2. 総合防災訓練の実施状況

実施月	想定内容	訓練内容	参加者
7月24日	日中想定	総合訓練 (消火・通報・避難誘導・消火器使用方法・屋内消火栓)	職員 18名 利用者 3名
8月31日	地震想定	シェイクアウト訓練 (盛岡市主催)	26名 参加
12月5日	夜間想定	総合訓練 (通報・避難誘導等)	職員 9名 利用者 20名

3. 広報委員会

- (1) 広報「さくらぎだより」は、年度初めに委員会にて年間で四半期毎に発行回数4回を目標とし、各行事や項目毎に担当者を決めて進めてきたものの、業務体制が整わず、年間1回の発行に留まった。
- (2) ホームページについては、特養及びグループホームの施設概要やサービス概要、情報公開、求人情報、行事等の実施状況を都度更新した結果、入所、求人の問い合わせがあった。今後も定期的に更新し施設のアピール強化を図っていくこととしている。

4. 安全委員会・事故対策委員会・身体拘束委員会・感染症対策委員会の活動

- (1) 平成30年度は、毎月1回の定例的に開催に拘わらず、リスク問題となる前に防止策を立てる等随時開催している。翌月初のリーダー会議で報告すると共に問題提起し改善を図っている。また毎月の回診時に合わせ経過報告を行った。

(2) 事故・ヒヤリハット報告

利用者の重度化傾向進み、人員体制が厳しい中で、平成30年度の事故・ヒヤリハット件数は229件（前年度232件）と3件の減少となった。新人介護職員を採用したことを踏まえ、改めて報告書の作成方法を学ぶとともに、些細なことでも報告し発生の要因をその都度情報共有したものの、大幅な発生件数の減少には至らなかった。

報告分析結果として、早朝から昼までの利用者の活動が多い時間帯の発生件数が多いことが考えられ、その中で認知症の利用者が多く幻視があり、思い違いが起りやすい等により、物を拾う動作があることで車椅子から転落、ずり落ちが多かった。

外傷については高齢であるが故の皮膚の脆弱によるものが要因と思料される。

平成30年度は、ケアの不適切による事故、繰返し起こる内容等、安全委員会で引き続き防止策を検討するとともに、施設全体で事故予防に向けたリスクマネジメント、職員の育成に取組み、再発防止に努めていくこととしている。

- (3) 身体拘束については、3か月に1回開催し、職員間でのコミュニケーションを密に利用者の観察と見守りを継続した。また身体拘束廃止を目的とした内部研修を開催した。しかし、食道瘻を増設した利用者の度重なる抜去があり、対応について委員会で検討した結果、生命及び安全を守る観点から、家族同意のもと、一時的にミトンを使用し対応を講じた。

- (4) 感染症については、日々のこまめな清掃を行い環境整備に努めるとともに、ノロウイルス等の感染による嘔吐物の処理方法として1週間連続して研修を実施する等、施設全体で日々の予防に努めたことで、前年度に続き利用者のインフルエンザ、ノロウイルス等の感染症の発生はなかった。

※平成30年度事故・ヒヤリハット報告の発生件数等の詳細は【別紙3】を参照。

5. 研修委員会の活動（介護サービスの質の向上を重視）

平成30年度は、福祉サポートから外部講師を招き、「施設事故におけるリスクマネジメント研修」として施設事故の責任と安全配慮について学び、事故防止策を改め

て認識を深めることができた。また、外部研修にも積極的に参加させ職員の資質向上を図った。

① 施設内研修実施状況

開催日時	研修内容		講師
30.4.2	新人職員研修会	平成29年、平成30年4月入職した新任職員を対象とした研修 身体拘束研修	・雪ノ浦施設長 ・大堂介護主任 ・藤田看護主任 ・田口管理栄養士 ・菊池機能訓練指導員
30.5.9 5.23	身体拘束研修	身体拘束廃止に向けての取り組みと実習生の指導職員向けの研修	・藤田看護主任
30.6.8	スピーチロック研修	外部研修に参加した、施設介護支援専門員と機能訓練指導員による研修報告 ・スピーチロック事例検討 ・グループワークでの検討	・瀧澤介護支援専門員 ・菊池機能訓練指導員
30.10.9	リスクマネジメント研修	外部講師を招き、施設事故におけるリスクマネジメントの講義研修	福祉サポート北東北 ・菅原正章氏
30.11.6	介護記録システム研修	介護記録システムメーカー担当者を招き、介護記録システムの概要を知る研修	ND ソフトウェア ・及川勝洋氏 アグウェルシステム ・阿部毅博氏
30.12.13	介護記録システム研修	部署ごとに介護記録システムを実際に操作し使用方法等を学ぶ研修	ND ソフトウェア ・及川勝洋氏 アグウェルシステム ・阿部毅博氏
31.2.13 3.20	身体拘束研修	身体拘束定義と廃止に向けた取り組みについて全職員を対象とした研修	・藤田看護主任

② 施設外研修受講状況

開催日	主催	テーマ	参加職種	参加者
30.5.31	盛岡市	福祉避難所の指定に関する説明会	総務課長	小田島敦史
30.6.4	岩手県社会福祉協議会	平成30年度リスクマネジメント講座	ユニットサブリーダー	吉田健太

30.6.11	盛岡赤十字病院	赤十字病院と地域をつなぐ研修会	看護師	藤田ミ子
30.6.18	岩手県福祉サービス適正化委員会	福祉サービスの苦情を考えるセミナー	生活相談員	中村健太郎
30.6.20	盛岡市保健所	平成 30 年度給食従事者研修会	管理栄養士	田口郁美
30.6.21	岩手県社会福祉事業団	平成 30 年度虐待防止研修	ユニットサブリーダー	鳥居裕子
30.6.21	中央ブロック高齢者福祉協議会	平成 30 年度第 1 回生活相談員、介護支援専門員研究会	介護支援専門員	瀧澤愛華
30.6.25 ～6.26	岩手県社会福祉協議会	平成 30 年度社会福祉従事者職員研修会	ユニットリーダー	大畑英弘
30.7.13	岩手県社会福祉協議会	平成 30 年度岩手県高齢者福祉研究会	施設長	雪ノ浦昭子
30.7.19	岩手県社会福祉協議会	平成 30 年度制度改革フォローアップセミナー	施設長 事務長	雪ノ浦昭子 武藤香織
30.8.3	岩手県社会福祉事業団	平成 30 年度リスクマネジメント研修【実践編】	介護主任	大堂公晋
30.8.9 ～8.10 30.10.3 ～10.4 30.11.6 ～11.7	岩手県社会福祉協議会	平成 30 年度岩手県介護職員等医療的ケア研修 (第一号、二号研修) 講義 演習	介護員	森田美智子 鈴木真弥 藤原友理奈
30.8.27 ～8.28	いわてユニットケア研究会	いわてユニットケア研究会 第 23 回研修会	介護支援専門員 機能訓練指導員	瀧澤愛華 菊池真美子
30.8.30 ～8.31	岩手県社会福祉事業団	平成 30 年度福祉職員キャリアパス対応職員生涯研修課程【中堅職員編】	ユニットサブリーダー	中田信孝
30.8.31	中央ブロック高齢者福祉協議会	平成 30 年度第 2 回生活相談員、介護支援専門員研究会	生活相談員	中村健太郎
30.9.5	中央ブロック高齢者福祉協議会	平成 30 年度第 1 回看護部会職員研究会	看護師	佐々木多美子
30.9.6	中央ブロック高齢者福祉協議会	平成 30 年度第 1 回事務研究会	事務長	武藤香織
30.9.7	岩手県社会福祉協議会	平成 30 年度社会福祉法人経営戦略セミナー	事務長	武藤香織

30.9.10	岩手県社会福祉協議会	平成 30 年度社会福祉従事者職員研修会	介護員	三浦美雪
30.9.27	いきいき岩手支援財団	平成 30 年度岩手県介護ロボット導入研修会	事務長	武藤香織
30.9.28	岩手県社会福祉協議会 岩手県社会福祉法人経営者協議会青年会	平成 30 年度マネジメント講座	事務長	武藤香織
30.9.28	中央ブロック高齢者福祉協議会	平成 30 年度第 1 回生活相談員、介護支援専門員研究会	生活相談員 ”	中村健太郎 川原崇生
30.10.1	いわての保健福祉支援研究会	感染症及び食中毒予防対策研究会	調理員	山口侑子
30.10.5	岩手県社会福祉協議会	社会福祉法人制度改革対応研修会	事務長	武藤香織
30.10.19	中央ブロック高齢者福祉協議会	平成 30 年度新任職員研修会	生活相談員 介護員 調理員 調理員	川原崇生 小笠原正樹 安本真実 佐々木久美子
30.10.23	岩手県社会福祉事業団	平成 30 年度メンタルヘルス研修【管理者編】	主任看護	藤田ミ子
30.10.24 11.26 12.25	公益財団法人いきいき岩手支援財団	平成 30 年度岩手県高齢者権利擁護推進員養成研修	生活相談員	川原崇生
30.10.29	いわてユニットケア研究会	いわてユニットケア研究会第 24 回研修会	主任看護師	藤田ミ子
30.10.30	岩手県社会福祉事業団	平成 30 年度福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程【チームリーダー編】	ユニットリーダー	井上真衣
30.11.2	盛岡市保健所	平成 30 年度感染症集団発生子予防研修会	看護師	菅野久美子
30.11.3	岩手県社会福祉士会	生活困窮者支援研修会	事務長	武藤香織
30.11.13	中央ブロック高齢者福祉協議会	平成 30 年度第 1 回給食研究会	調理員	岩葉久美子 佐々木久美子
30.11.13 11.14	岩手県社会福祉協議会	平成 30 年度いわて福祉施設研究会	機能訓練指導員 生活相談員	菊池真美子 川原崇生
30.11.16	中央ブロック高齢者福祉協議会	中央ブロック高齢者福祉施設防災担当者会議	生活相談員	川原崇生
30.11.19	岩手労働局	働き方改革関連法説明会	事務長	武藤香織

30.11.21	中央ブロック高齢者福祉協議会	平成 30 年度看護部会職員研究会	看護師	佐々木多美子
30.12.5	中央ブロック高齢者福祉協議会	平成 30 年度第 1 回介護部会研究会	ユニットリーダー	井上真衣
30.12.8	国立病院機構盛岡病院	平成 30 年度結核医療研修会	看護師	三上真一
30.12.13	岩手県社会福祉協議会	平成 30 年度制度改革フォローアップセミナー後期	事務長	武藤香織
30.12.27	岩手県社会福祉協議会	平成 30 年度第 2 回防災会議	生活相談員	川原崇生
31.1.17 ~1.18	中央ブロック高齢者福祉協議会	第 34 回中央ブロック高齢者福祉協議会職員研究大会	施設長 事務長 介護支援専門員 生活相談員 介護主任 ユニットリーダー	雪ノ浦昭子 武藤香織 井上 扶美子 川原崇生 大堂公晋 井上真衣
31.1.2	岩手県福祉サービス運営適正化委員会	盛岡地区福祉サービス苦情解決情報交換会	生活相談員	中村健太郎
31.1.25	岩手県社会福祉協議会	平成 30 年度 21 世紀委員会研修会	事務長	武藤香織
31.2.9	岩手県介護福祉士会	災害・倫理研修会	ユニットリーダー	久保田祐司
31.2.1	盛岡市保健所	平成 30 年度高齢者施設等給食従事者研修会	管理栄養士	田口郁美
31.2.14	岩手県社会福祉協議会	平成 30 年度地域福祉推進トップセミナー	理事長	雪ノ浦昭子
31.2.22	中央ブロック高齢者福祉協議会	平成 30 年度中央ブロック高齢者福祉施設協議会定期総会施設長研修会	施設長	雪ノ浦昭子
31.2.26 ~2.27	仙台市老人施設協議会	平成 30 年度東北ブロックカントリーミーティング仙台	事務長	武藤香織
31.3.6	岩手県社会福祉協議会	平成 30 年度社会福祉法人経営者総会・管理者セミナー	理事長	雪ノ浦昭子

6. 実習生の受入状況

種別	学校名	受人数
看護・介護体験実習	岩手医科大学 医学部・歯学部	6名
	日建学院	2名
介護職員実務者研修	介護労働安定センター	2名
介護体験	北松園中学校	10名

7. ボランティア・福祉体験受入れ・サークル活動・行事等の状況

(1) 受入れ状況

例年どおり、施設行事で唄や踊り、傾聴ボランティア、絵本の読み聞かせ、ギター唄会、合唱等の定期的なボランティアの受入れを行い、地域交流と社会参加の機会となり、利用者だけでなく家族からも喜ばれた。

※ボランティア受入れ状況の詳細は【別紙5】のとおり

(2) 施設行事・ユニット行事実施状況

動物とのふれあいとして馬っこパークへの外出、中央公民館や高松の池の桜を観覧、盛岡秋祭りの山車見学を実施し、利用者との更なるコミュニケーションを図った。

※施設行事・ユニット行事実施状況は【別紙4】のとおり

(3) サークル活動実施状況

利用者の社会参加の一環で毎月、臨床美術 吉田滋子氏、フラワーアレンジメント 星野美夏氏を講師として招き、作成活動を実施している。

※サークル活動の詳細は【別紙5】のとおり

8. 利用者家族交流会の開催

平成31年3月9日に、22世帯で総勢38名の家族の参加の下、当厨房の手作りの昼食を提供し、職員とコミュニケーションを図り、日頃感じている事や施設に対する要望について、第三者委員によるアンケートを実施し、直接意見をうかがい、盛会裡に終了した。アンケートの中で職員の応対等に対するご意見は感謝の言葉が多かった。

皆様からいただいた要望やご意見を取り纏め、職員全員に周知し、より良い介護サービスを提供出来るよう改善に向けて今後も取り組んでいくこととする。

9. 生活介護係

(1) 個別ケアとサービス向上への取り組み

利用者個々の状態把握に努め、各職種とも情報共有しながら連携を図り、より良いサービスを提供できるよう創意工夫を行った。また、利用者の日常生活においては、メリハリのある生活を送っていただくべく、離床する時間を作り、職員とのコミュニケーションを図りながら信頼関係の構築に努めた。また、利用者の個々の思いを知るために職員間との情報交換やご家族の方へ相談し協力を得ながら、利用者が快適に

過ごしていただけるよう支援した。

施設内研修では外部研修に参加した職員が講師となり、実演を取り入れながら講義を行うことでより理解を深め、サービスの質の向上に努めることができた。

(2) 行事・外出・趣味活動について

ユニット行事にて、季節に合わせて外の景色を楽しんだり、旬のものを食しユニット行事を通して、利用者と職員との楽しい時間を過ごすことが出来た。また、人員体制や利用者の状態を考慮し、2ユニット合同で行事を実施した。また、個々の趣向を取り入れ、外部講師によるクラブ活動を充実させた。

10. 医務室

(1) 利用者の健康管理、体調不良時の迅速、不穏時の対応について

- ① 健康診断、入所時検査、定期採血を実施することにより、利用者の健康状態を把握し、体調不良時には早期に受診し、健康管理に努めた。
- ② 各ユニットに温度計を設置。居室の温度、湿度、掛物の調整を行い、介護職員と連携を図り、健康維持・管理に努めるとともに、居室の清掃を徹底し快適な住環境の提供と併行し感染症対策を行った。
- ③ 発熱、下痢、嘔吐、皮膚トラブル、経管栄養の滴下不良に対して受診し、内服薬点滴の指示を受け、胃ろう、食堂療の交換を行って、健康維持に努めた。
- ④ 利用者の体調や病状等を逐次家族に報告・説明することで信頼に努めた。
- ⑤ 認知機能低下により、帰宅願望のある利用者について、他職種間の連携を図り、職員の配置を検討し、見守りを強化することで利用者の安全を確保した。
- ⑥ 経管栄養の利用者の口腔ケアを実施することで、肺炎予防や口腔内の清潔保持に努めた。
- ⑦ 利用者の日常の苦痛を解消すべく「適切な姿勢で過ごしていただく」ことを目標に介護職員と連携を図り対応した。

(2) 協力病院との連携

病院受診の際に、意向を伺う都度、情報提供する事で協力病院との連携に努めた。

(3) 介護職員の医学的知識の提供、指導

施設内研修の他、申し送りの際に職員に対し、利用者の状態や疾患について情報提供を行った。

(4) 医療的ケアの研修の実施について

介護職員4名が医療的ケアの研修を受講。実地研修を実施し4名が資格取得した。

(5) 全職員に対する感染症の防止と予防の徹底について

- ① 手洗い、エプロン、マスク装着の指導
- ② ユニット、特に水回りの清潔を維持することを指導した。
- ③ 利用者の洗顔タオルを清潔に保つように対応（眼脂から MRSA 発症者の洗顔タオルは個別に洗濯・消毒を行った）
- ④ 拡大防止の為に、統一した申し送りを実施。適正な消毒剤の使用方法を徹底した。
- ⑤ 感染委員会が主体となり、清掃週間設定。各居室の清掃をこまめに行い、感染予防に努めた。

- ⑥ 感染症マニュアルに従い、施設内研修を実施し感染症（インフルエンザ・ノロウイルス）について、全職員に周知徹底した。また、感染委員の指導による介護職員の汚物処理の実演も1週間実施した。
- ⑦ 職員が体調を崩した際は、早期受診と休養を促した。

1.1. 機能訓練

(1) 施設利用者様の身体機能低下予防と介護予防活動の活発化

- ① 例年同様に機能訓練指導員が各利用者の身体機能を評価し、その後のケースカンファレンスにて他部署と検討を行い、担当者会議などを通し、本人あるいは家族に機能訓練計画への同意を得た後実施している。日常生活において、自身で実施可能な活動や動作を継続・維持できるように生活リハビリを軸として、ユニット職員や他部署の職員と連携と働きかけを行い、必要に応じて機能訓練指導員が個別運動を実施した。現在、介護度の高い利用者の増加に伴い、機能の維持・低下予防が主体となっているが、本人・家族の意向に添いながら、来年度についても他部署と協力を行い実施していくこととする。
- ② 介護予防活動や社会参加の取り組みとして、例年同様にユニット・施設行事の他、コーラス活動、園芸、習字、サークル活動(臨床美術・フラワーアレンジメント) 外出、グループ体操などを実施。今年度で3回目となる体験型映画会も開催することができた。また、行事等で地域住民の方にボランティアとして来所していただくことができたので、来年にも繋げていきたい。

1.2. 栄養課

(1) 快適な食生活を送れるよう支援した。

- ① 栄養並びに心身の状況を考慮した栄養ケアマネジメントの実施
一人ひとりの身体状況、咀嚼・嚥下機能、嗜好・意向等や、多職種からの情報を基に栄養ケアマネジメントを実施し、各利用者様に合った食事の提供に努めた。
- ② 栄養面や嗜好面に考慮したメニューの作成、行事食の実施
 - ・栄養目標量に基づき献立を作成し、摂取が難しい栄養素も、味を重視して栄養強化食品を選択し、利用者様に無理なく摂取して頂けるよう努めた。また、食材も旬のものを取り入れ、冬季には土鍋料理も提供し、食事からも季節が感じられるよう取り組んだ。
 - ・管理栄養士のみならず、調理員もユニットを回り、利用者の意見を聴取した上で巡視記録は給食会議の参考資料とし、改善に繋げることができた。
 - ・食塩量については、出しわり醤油の使用、味噌汁・漬物の調整、盛付けの統一で年間平均では目標の7g未満に抑えることができた。
 - ・刻み食、ゼリー食の利用者への対応は、盛り付けの工夫や、調理法も食材によっては刻まずに提供できる方法を検討した。

(2) 食中毒や感染症の発生防止

- ① 日常的な注意喚起と衛生管理、予防を徹底した。
 - ・日頃から食材・器具・調理場の衛生管理を徹底し、インフルエンザやノロウイルス

流行時には消毒等を一層強化し、安全な食事の提供に努めた。またノロウイルスによる食中毒予防として、今年度は栄養課職員のノロウイルスの検便検査を2月に実施した。

- ・衛生害虫防除については、厨房内は業者による点検を月1回実施し、ユニット等で衛生害虫が発生した場合も、業者による点検・必要時には薬剤散布をその都度実施し、衛生管理を徹底した。

(3) 行事食やセレクト食の実施

①行事食については、敬老会の松花堂弁当やクリスマスケーキ、大晦日の松花堂弁当、年越しそばの他、祝日に合わせた行事食、三寿司やちゃんこ太五郎による専門店の味等、普段とは異なった雰囲気での食事を楽しんでいただけるよう取り組み、利用者や家族、職員にも好評であった。

セレクトおやつは、季節や行事に合わせた内容で実施した。

②行事食（おやつセレクト含む）の実施状況

年	月	食事の内容
30	5	こどもの日（昼食：穴子ちらし、おやつ：柏餅） 母の日（おやつ：ロールケーキセレクト）
	6	セレクトおやつ：蒸しパン
	7	七夕（昼食：七夕そうめん、おやつ：七夕ゼリー） セレクトおやつ：ロールケーキ 土用の丑（昼食：お好みひつまぶし） 夏祭り（昼食屋台メニュー：カレーライス、水まんじゅう）
	8	お盆（昼食：赤飯、煮しめ、ところてん） セレクトおやつ：アイスクリーム
	9	敬老会（昼食：松花堂弁当、おやつ：紅白まんじゅう） セレクトドリンク：野菜ジュース セレクトおやつ：ロールケーキ 十五夜（昼食：月見そば、おやつ：十五夜ゼリー）
	10	セレクトおやつ：ケーキ ハロウィン（おやつ：手作りかぼちゃプリン）
	11	寿司の日（昼食：三寿司慰問・にぎり寿司） おやつセレクト：おかき 介護フェア（おやつ：喫茶メニュー） 手打ちそば（昼食：藤田様慰問）*やまぼうしユニット行事
	12	クリスマス会（おやつ：クリスマスケーキ） クリスマス（昼食：クリスマスプレート おやつ：クリスマスケーキ(白石食品工業より寄贈)） おやつセレクト：クレープ 大晦日（夕食：松花堂弁当、年越しそば）
31	1	正月料理

	<p>人日の節句（昼食：七草粥） 成人の日（昼食：ネギトロ丼） おにぎりの日・鍋料理（昼食：おにぎり、酒かす鍋） おやつセレクト：洋菓子</p>
2	<p>節分（昼食：太巻き・にぎり寿司、鯛つみれ汁 おやつ：節分和菓子） バレンタインデー（昼食：ハヤシライス、ハートのコロッケ おやつ：ハートのどら焼き） 鍋料理（昼食：おでん）</p>
3	<p>ひなまつり（昼食：海鮮ちらし、おやつ：ロールケーキセレクト） ちゃんこ巡業（昼食：ちゃんこ太五郎慰問・赤味噌ちゃんこ） 鍋料理（昼食：豆乳鍋）</p>

1.3. 中期経営計画の「問題解決に向けた取り組み」に対する実績及び評価

(1) 施設部門

〈問題解決に向けた取り組み〉

課 題	経営計画推進体制の確立		
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・中期経営計画が日常的に意識できるよう、毎月のリーダー会議・職員会議にて職員への意識付けを行う。 ・中期経営計画の進捗状況の確認をリーダー会議等で発表し職員に把握させるとともに職員の意見を集約し改善・向上につなげていく。 		
	平成30年度		
目標項目	目標値	実 績	目標対比
リーダー会議・職員会議での進捗状況の確認回数	四半期毎	年4回実施	リーダー会議及び職員会議で進捗状況について確認し目標達成に向け促した。

課 題	利用者・家族の満足度と接遇マナーの向上		
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・接遇マナー研修会の実施、自己チェックによる振り返り、ケースに応じた職員への個別指導の徹底により、接遇マナーを向上させる。 ・利用者の尊厳を重視したサービスが浸透するよう、権利擁護に関する研修会を実施する。 ・利用者、家族及びボランティアに満足度に関するアンケートを実施、また、継続して第三者委員による聞き取り調査を実施し、その結果を踏まえ、要因分析と改善策を全職員に徹底することで満足度の向上に取り組む。 ・利用者家族に対して、カンファレンス・面会時の際に、要望や意向を聞き取る。 ・広報「さくらぎだより」を定期発行し、家族懇談会や制度改正説明会を通して、積極的な情報提供と意見交換を行い、家族とのつながりを強化することで家族が相談しやすい体制を構築する。 		
	平成30年度		
目標項目	目標値	実 績	目標対比
利用者・家族へのアンケート実施回数	年1回	3回実施	9月8日開催の敬老会、3月9日開催の家族交流会にてアンケート実施。アンケートの他、苦情対応委員会、第三者委員による聞き取り調査を実施した。
上記アンケート結果による満足度	80%	94% (総体平均)	上記実施のアンケート結果では相談・情報提供等の満足度で94%、職員の対応については5段階評価で「良」以上が94%の利用者家族の満足度となり、前

			年度を上回る結果だった。
--	--	--	--------------

課 題		地域に根ざした施設運営の推進		
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・地元町内会等地域住民に対して、介護福祉に関する教室、講演会等を開催し地域貢献につなげる。 ・地域のお祭り等の行事に参加し、積極的に交流を図る。 ・施設行事に地域住民の参加を勧める。 ・災害時や高齢者の捜索等緊急時にも積極的に協力する。 ・岩手県社会福祉協議会ボランティア（市民活動センター）等を通じ、ニーズにあった新規ボランティアの確保を行う。 			
目標項目		平成30年度		
		目標値	実 績	目標対比
地域住民向けの介護教室・講演会の開催実施		1回 ～2回	1回	近隣町内会と講演会の開催について検討したものの実施できず。 岩手県社会福祉協議会からの視察研修依頼で奥州市前沢地区児童委員12名を受け入れ、介護保険サービスと施設概要等の説明を行った。
ボランティアの積極的受入		4回	31回	傾聴、絵本の読み聞かせ等で計31回のボランティアを積極的に受入した。

課 題		職員研修の充実と専門性の向上		
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員を対象に定期的に施設内研修を実施し、勤務体制の状況によっては時間外での開催も検討する。 ・引き続き外部研修に積極的に派遣し、復命研修や他職員に対してOJTを行い、日常業務の中で実践していく。また、OJTでの指導を活性化させ、共に気付きを向上させる取組みを行っていく。また、施設内研修に、外部講師も積極的に招へいする。臀部 ・職員の資格取得を奨励し、積極的に情報提供を行っていく。 			
目標項目		平成30年度		
		目標値	実 績	目標対比
施設内研修の開催回数		5回	7回	研修委員会が主体となり、外部講師を含めた研修会を計7回実施し達成
施設内研修への職員参加率		100%	100%	職員のシフトに併せ、回数を分けて開催し全員参加となった。

職員の資格取得率（専門職員数に対する介護支援専門員・介護福祉士の取得割合）	40%	67%	医療的ケア第一号、二号研修に3名参加し資格を取得した。
---------------------------------------	-----	-----	-----------------------------

課 題	会議、委員会の活性化と職員間の連携強化		
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・各種委員会については、今まで毎月初のリーダー会議と併せて開催していたが、今後は内容の充実化と効率化を図るため、各種委員会の開催は毎月末週に開催し、翌月のリーダー会議で内容報告と意見集約を行うこととする。その後、職員会議で議事録等資料を各部署及びユニットに配布するとともに、申し送りでも徹底し浸透させる。 ・事前の資料作成と配布により、会議時間を短縮し、業務に支障を来たさぬよう、効率的に実施する。 ・会議、委員会開催開始時間の徹底と終了時間を明確にする。 ・職員間の連携強化については、部署毎、ユニット会議を定期的に行い情報の共有化を図る。 		
		平成30年度	
目標項目	目標値	実績	目標対比
部署毎、ユニット会議の開催回数	毎月2回以上	2か月（平均）	ユニット毎で開催回数が不定期であったため未達成。

課 題	権利擁護の推進		
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・身体拘束廃止、虐待防止について、委員会の活性化を図り、個々のケア場面について検証し、虐待防止と利用者の人権や安全に配慮したケアの改善に取り組む。 ・権利擁護及び高齢者虐待防止等について研修会を通じ、職員一人ひとりが関心を持ち、正しい知識を身に付けることで、尊厳の保持及び利用者本位のケアに向けて介護力、看護力を高める。 		
		平成30年度	
目標項目	目標値	実績	目標対比
身体拘束廃止・虐待防止に向けた研修実施	2回	2回	安全委員会委員が講師となり本テーマにて施設内研修を実施。
権利擁護研修への派遣	2名	1名	権利擁護に関する外部研修に相談員1名が受講。

課 題	情報開示・情報提供の充実
-----	--------------

取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・広報「さくらぎだより」については、利用者家族等の知りたい情報が発信できるよう、掲載内容を充実させる。 ・施設選定の参考となるべく、ホームページの掲載内容を検討・精査し、定期的な更新を行う。 		
目標項目	平成30年度		
	目標値	実績	前期比
「さくらぎだより」の定期発行	年4回	年1回	期初に年4回の発行日を決定したものの、1回の発行に留まり、目標未達成。
ホームページの充実	年6回の定期見直し	法人の情報公開、求人情報、行事等開催の都度更新し、充実を図った。	施設行事や法人の概要のみならず、施設入所希望者、求職者に対する情報発信とアピール強化に繋がった。

課題	感染症対策の充実及び徹底		
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症マニュアルは平成29年度に見直し改正したことから、改めて感染症委員会が主体となり、マニュアルの周知を行い、感染症予防対策や緊急時の備えを講ずる。 		
目標項目	平成30年度		
	目標値	実績	目標対比
感染症予防研修の実施	6回	施設内研修でマニュアルに沿って実施。その後汚物処理方法等実演を一週間実施により目標達成。	研修と各部署に備え付けし全職員に周知徹底を図り目標達成。

課題	計画的な修繕		
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・修繕整備する必要がある設備機器等について調査の上、整理し優先順位をつけ、計画的な修繕を行う。 ・設備機器の正しい使用方法を再確認し、異常の早期発見と報告を徹底するため、取扱マニュアルと修繕管理簿を作成する。 ・利用者の行為、又は職員の誤操作等による突発的な修繕については、発生要因の 		

検証と再発防止の検討を徹底し、突発的修繕を抑制する。			
目標項目	平成30年度		
	目標値	実績	目標対比
設備機器の正しい使用方法の再確認、異常の早期発見と報告の徹底。	故障発生報告書及び管理簿の作成	故障発生報告は都度破損報告書の提出を徹底した。	目標達成。
突発的修繕の抑制	修繕計画表の作成	平成30年度の修繕費総額1,933千円。 (別紙2修繕費その他 のとおり)	空調設備の全面入替工事を行い、上記の修繕は発生せず。給排水、ネットワーク設備は経年劣化による修繕が発生し都度対応。

課題	利用者の安全管理の徹底		
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急時マニュアルは平成29年度に見直し再作成済みであることから、周知徹底し感染予防、事故対策に努める。 ・協力病院や他職種と連携を図り、利用者の状態を把握し、体調不良を早期発見し、迅速な対応を行い、重症化を防止する。 ・職員へ施設内研修等により、医学的知識を提供し、利用者の体調不良等の異常について早期に発見する。 ・「医療的ケア」に参加することで、介護職員が技術・知識を習得し、利用者の安全を確保する。 ・利用者家族と情報を共有・提供し、利用者の健康を維持し信頼関係を構築する。 		
目標項目	平成30年度		
	目標値	実績	目標対比
施設内研修の実施	2回	安全委員会にてマニュアル施設内研修で全職員に徹底。	目標達成。今後も内容について随時見直し充実を図る。
「医療的ケア」研修の参加	職員参加	30年度は3名の介護員を受講させ資格を取得	目標達成。今後も質の向上目指し積極的に介護員を受講させていく。

課題	施設利用者の身体機能低下予防と介護予防活動の活発化		
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・個別実施計画に基づいた機能訓練の実施と定期的な評価と見直し ・カンファレンスや実施プラン等の利用者情報及び報告について、情報共有化を徹底する。 ・多職種と協働し・機能訓練並びに介護予防活動の強化を図る。 		

・機能訓練実施体制や方法を見直すことで利用者満足度の高い機能訓練・介護予防活動を提供していく。			
目標項目	平成30年度		
	目標値	実績	目標対比
・機能訓練実施プラン ・介護予防活動	定期的な評価 と見直し実施	3 か月毎	期初に機能訓練実施計画と介護予防活動計画に分別し策定。評価は3 か月毎に実施。 評価及び見直しの実施により目標達成。今後も随時見直し検討予定。
・機能訓練実施プラン ・介護予防活動	実施・参加 回数	1 か月 2 回以上	機能訓練実施については個別に定期的実施、介護予防活動は全体またはグループで平均5 回以上実施。 個別訓練については、工夫し実施回数を増やした。介護予防活動は利用者のニーズも把握の上実施し目標達成。

課題	快適な食生活を送れるよう支援する		
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養並びに心身の状況を考慮した栄養マネジメントの実施。 ・栄養ケア計画に基づき、栄養面、嗜好面、季節感を考慮したメニューを作成する。また、日々可能な限りユニットを回り、利用者より食事に対する意見を聴取の上、記録し改善に繋げる。 ・食事摂取基準改正後の食塩量に抑制するため、盛付器具の統一と献立の見直し、盛付等によるバラつきをなくする。 ・刻み食、ゼリー食については、利用者の意見の他、介護職員の意見も取り込みながら盛付等を工夫する。(行事食や楽しみとしての取組みについても同様に実施) ・食中毒や感染症予防については、職員の意識レベルを向上させるため、日常的な注意喚起と衛生管理を徹底。 ・栄養ケア計画含む利用者情報及び報告について、組織配置に則って改めてルール作りし情報共有化を徹底する。 		
目標項目	平成30年度		
	目標値	実績	目標対比
食事の減塩対策（1日あたり7g未満）	献立の見直し・検討	前期に続き、減塩対策継続、また献立も見直し、1日あたり7g未満に抑えることが出来た。	目標達成。今後も維持管理を徹底。
情報共有・記録簿に関するルール作り	記録簿の見直し	カンファレンスと申し送りにて情報共有することをルール化	目標達成。今後も各部署との連携強化し情報の共有化を

		し、前期に続き記録簿についても再度見直しを図った。	図る。
--	--	---------------------------	-----

課 題	特養の利用稼働率の維持・向上			
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・タイムラグの少ない施設入所を行うため、入所判定委員会で入所順位を決定しているが、入所の段階で断られるケースもあるため、申込待機者リストの更新を常に行い、待機者の動向調査を行う等管理を更に強化する。 ・長期入院者については、家族・協力病院と連携し、空床期間をできる限り短縮する。また、入院中の空床ベッドを有効利用し、短期入所の利用率アップにつなげる。 ・生活相談員と居宅介護事業所との連携を密にし、空床を埋めるとともに継続利用に繋げる。 			
指 標 (稼働率)	平成 29 年度 実績	平成 3 0 年度		
		目標値	実 績	前期比
施設入所	100%	95%	99%	入院による退所者があつたものの、待機者数の動向調査の把握、新規入所者確保に向けて関係機関への情報提供を重ねたことにより目標達成。

(2) 短期入所生活介護事業所計画
(利用稼働率の向上)

指 標 (稼働率)	平成 29 年度 実 績	平成 3 0 年度		
		目標値	実 績	前期比
短期入所	80.8%	87%	79.4%	目標は未達であつたが各事業所及び病院等への利用促進強化を図り昨年度とほぼ横ばいの実績を確保することができた。

〈さくらぎの里居宅介護支援事業所〉

〈実施報告〉

1. 利用者や家族からの相談に対し、訪問、電話、来所等、様々な方法により対応を図った。
利用者や家族の依頼により、要介護認定申請手続き業務を代行する等、利用者の便宜を図った。利用者や家族に対し、適切な意思決定ができるよう介護保険及び、各サービス事業所や医療機関に関する情報提供に努めた。
2. 認知症高齢者への支援のため、地域での研修へ積極的に参加し、専門知識の習熟に努めるとともに利用者・家族・医療機関・サービス事業所との連携を密にし、利用者本人に最も適切なサービスの提供を行い、継続的に支援を行った。
3. 十分なアセスメントを行い、利用者や家族の意向に基づいたケアプラン作成を行いながら、生活における課題の改善が図れたかどうかのモニタリングを行った。
4. 利用者数増加の挽回策として、地域包括支援センター及び在宅介護支援センター、病院への訪問を重ね、居宅支援事業所のパンフレットや広報を地域や事業所等へ配布する等新規先確保の強化に努め、介護予防11件の実績等新規先の確保に繋がった。
5. 中期経営計画の「問題解決に向けた取組み」に対する実績及び評価

〈利用稼働率の向上〉

指 標 (稼働率)	平成29年度 実 績	平成30年度		
		目標値	実 績	前期比
居宅介護計画作成件数 (平 均)	24.6件	30件	29.5 件	関係機関への積極的な訪問を重ね、昨年度を上回る契約数を確保することができた

〈グループホームさくらぎ〉

1. 事業活動内容の総評

平成30年度は通年での稼働となり、入所者の入院による退所もあったが、ほぼ満床での稼働状況であった。

入居者については、本人の自己決定を尊重し支援することを心掛け、食事や趣味、外出等、本人の希望に寄り添う介護を行った。排泄の自立支援、認知症の進行防止等、在宅生活からの継続性を重視した個別サービスを提供した。

医療面では、入居者が良好な健康状態を維持できるよう、協力病院と協力歯科医院との連携を図り、緊急時のスピーディーな対応を図ることができた。

入居者、職員、地域住民と交流を図るべく、施設の一般開放を企画実施した。交流を通し、地域とより良い関係を構築するきっかけとなった。

平成31年度は、サービスの質の向上を高めるため、引き続き職員の自己啓発の促進と外部研修への職員参加及び内部研修の定着を図ることで知識面、技術面のレベルアップを目指し、積極的に入居者への支援を図り、満足度を高める支援を職員全員で提供できるよう努めていく。

※平成30年度の活動内容等の詳細は次のとおりである。

2. 入居者の身体状況等（平成31年3月31日現在）

	平均介護度	平均年齢	最高年齢	最少年齢
男性	要介護 2	90歳	93歳	86歳
女性	要介護 2	81歳	97歳	76歳
全体	要介護 2.1	89.1歳	97歳	76歳

3. 日常生活

(1) 援助方針

入居者本位の観点から、プライバシーや人権の尊重と本人の希望を実現する援助のため、職員は制止や言葉の拘束を行わず、入居者の体調に注意した上で外出を定期的 to 実施し気分転換を図った。

(2) 自己判断

入居者が極力自立した生活を送れるよう支援するため、入居者自身が考えて判断する場面を作り、意識して声掛けを行った。

(3) 地域・家族交流

地域交流を図るため、町内会行事に積極的に参加し、またグループホームでの単独行事と施設開放のほか、特養さくらぎの里の行事への合同参加により、家族間との交流を深めた。

(4) 感染症対策

インフルエンザ予防接種を入居者及び職員に実施したが、平成31年1月にインフルエンザA型に入居者3名が罹患。蔓延防止を図るため、罹患者の方々には一時的にトイレ以外は居室で過ごしていただくとともに、一時的に面会制限を敷いて早期に終息した。発生を踏まえ、改めて施設全体で手洗い、うがいマスク着用徹底を図ったことで、新たな発症者はなく通常の生活に戻った。

(5) 食事

食事の提供時間		摂取状況【つばき】	摂取状況【ぼたん】
配膳時間		全面介助 0人	全面介助 0人
朝食	7:30	半介助 0人	半介助 0人
		ほぼ自立 9人	ほぼ自立 9人
		自助具使用 0人	自助具使用 0人
昼食	12:00	食事形態状況【つばき】	食事形態状況【ぼたん】
		普通食 9人	普通食 8人
		刻み食 0人	刻み食 1人
夕食	18:00	ミキサー食 0人	ミキサー食 0人
※残食調査の実施状況 … 毎食実施			
※メニューは、特養の管理栄養士と連携し、バランスの取れた食事作りを行い、季節にあった食事や行事食を定期的に提供。			

(6) 入浴・排泄・移動

【つばき】

入浴の実施状況	おむつの使用等の状況	機器等の使用状況	
		機器名	施設内
入浴回数 週2回以上	紙おむつ使用者 0人	車椅子	操作自立 1人
一般浴	リハビリパンツ使用者 6人		操作介助 人
対象者数 9人	(全員パット併用)		操作見守 (1)人
内 ほぼ自立 2人	尿取りパットのみ使用者 9人	歩行器	0人
半介助 7人	未使用者 7人	杖	2人
全介助 0人	※日中、夜間共に随時確認の上、交換している。	独歩・ほぼ自立	6人
入浴日 1・2階共に1日		介助歩行	0人
約3人を入浴			

【ぼたん】

入浴の実施状況		おむつの使用等の状況		機器等の使用状況		
入浴回数	週2回以上	紙おむつ使用者	0人	機器名	施設内	
一般浴		リハビリパンツ使用者	6人	車椅子	操作自立	0人
対象者数	9人	(全員パット併用)			操作介助	0人
内	ほぼ自立 2人	尿取りパットのみ使用者1人			操作見守	(0)人
	半介助 7人	未使用者 2人		歩行器		2人
	全介助 0人	※日中、夜間共に随時確認の		杖		3人
入浴日	1・2階共に1日	上、交換している。		独歩・ほぼ自立		5人
	約3人を入浴			介助歩行		0人

(7) 行事の実施状況

開催日	行事名	開催場所	参加者数
30.4.11	臨床美術	グループホームさくらぎ	11名
30.4.21~30	お花見(つばき)	サクラ開花地へ	9名
30.4.23~5.5	お花見(ぼたん)	サクラ開花地へ	9名
30.5.2	チェリーバンド慰問	特養らぎの里	6人
30.5.9	臨床美術	グループホームさくらぎ	11人
30.5.12	地域一般開放(来場者39人)	グループホームさくらぎ	18人
30.5.18	うたの会(ボランティア吉田充子様)	グループホームさくらぎ	18人
30.5.31	ちゃぐちやぐ馬っこ訪問	特養さくらぎの里	6人
30.6.4	つばき誕生会	グループホームさくらぎ	8人
30.6.13	臨床美術	グループホームさくらぎ	10人
30.6.18	つばき誕生会	グループホームさくらぎ	8人
30.6.22	眼の健康講座	高松老人憩の家	4人
30.7.10	高松保育園訪問(年長組14人)	グループホームさくらぎ	14人
30.7.11	臨床美術	グループホームさくらぎ	10人
30.7.21	さくらぎの里夏祭り	特養さくらぎの里	10人
30.8.1	うたのボランティア(山口雄二様)	グループホームさくらぎ	16人
30.8.5	高松老人憩の家夏祭り	高松老人憩の家	5人
30.8.8	臨床美術	グループホームさくらぎ	9人
30.8.9	うた会(雪ノ浦健様)	グループホームさくらぎ	18人
30.8.24	ぼたん誕生会	グループホームさくらぎ	9人
30.8.26	町内資源回収	高松老人憩の家	2人
30.8.31	絵本の読み聞かせ(藤村由美様)	グループホームさくらぎ	18人
30.9.9	夕涼み会	グループホームさくらぎ	17人
30.9.16	敬老を祝う会	グループホームさくらぎ	17人

30.9.22	みかわや移動販売	グループホームさくらぎ	18人
30.10.3	ミニ運動会	グループホームさくらぎ	17人
30.10.10	臨床美術	グループホームさくらぎ	10人
30.10.15.	芋煮会	グループホームさくらぎ	18人
//	つばき誕生会	グループホームさくらぎ	8人
30.10.21	お茶会	高松老人憩の家	9人
30.11.1	寿司の日バイキング	グループホームさくらぎ	18人
30.11.3	高松3丁目作品展覧会	高松老人憩の家	4人
30.11.8	ぼたん手作りおやつ	グループホームさくらぎ	9人
30.11.10	介護フェア	特養さくらぎの里	6人
30.11.11	町内資源回収	高松老人憩の家	2人
30.11.14	臨床美術	グループホームさくらぎ	12人
30.11.16	うたの会(吉田充子様)	グループホームさくらぎ	16人
30.11.19	映画上映会	グループホームさくらぎ	18人
30.11.26	映画上映会	グループホームさくらぎ	18人
30.12.8	クリスマス会	グループホームさくらぎ	16人
30.12.30	紅白歌合戦	グループホームさくらぎ	18人
31.1.2	書初め	グループホームさくらぎ	9人
31.1.9	臨床美術	グループホームさくらぎ	13人
31.1.10	つばき誕生会	グループホームさくらぎ	8人
31.1.13	ミズキ団子作り	グループホームさくらぎ	18人
31.1.17	ぼたん誕生会	グループホームさくらぎ	9人
31.1.30	映画上映会(つばき)	グループホームさくらぎ	6人
31.2.3	うたの会	グループホームさくらぎ	17人
31.3.3	ひな祭り会	グループホームさくらぎ	18人
31.3.13	臨床美術	グループホームさくらぎ	13人

4. 事故・ヒヤリハット状況について

報告分析結果として、認知症の症状や加齢に伴う筋力低下に伴い歩行が安定しないことが要因であった。

令和元年度は、職員の配置体制の見直しによる見守り強化やリビング及び居室のレイアウトの変更等によるケガ防止策を図る。また、ケアの不適切による事故、繰返し起こる内容等、職員会議で防止策を検討するとともに、施設全体で事故予防に向けたリスクマネジメント、職員の育成に取組み、再発防止に努めていくこととする。

※事故・ヒヤリハット発生件数状況は、【別紙7】のとおり

5. 研修受講状況

〈外部研修〉

開催日	主催	テーマ	職種	参加者
30.5.18	盛岡市保健福祉部介護保険課	盛岡市高齢者保健福祉関係行政説明会及び介護保険施設等集団指導	計画作成担当者	伊藤眞希子
5.22	公益社団法人日本認知症グループホーム協会岩手支部	第10回日本認知症グループホーム協会、岩手県支部総会及び定例研修会	管理者	小林日和
5.25	盛岡市保健福祉部地域福祉課	平成30年度社会福祉法人全体指導会	管理者	小林日和
6.14	岩手労働局	岩手県健康セミナー（熱中症対策）	看護師	瀬川千鶴
7.20	中央ブロック高齢者福祉協議会	平成30年度第1回通所介護研究会	看護師	瀬川千鶴
7.23 ～ 9.7	岩手県社会福祉事業団	平成30年度岩手県認知症介護実践者研修	介護員	千葉佳子
7.23	介護労働安定センター	介護現場にいける口腔ケアの指導法	介護員	木村由香
7.23	岩手県認知症高齢者グループホーム協会	平成30年度第2回研修会	介護員	藤原 睦
8.23	岩手県社会福祉事業団	平成30年度岩手県認知症介護実践者研修	介護員	押切幸子
9.3	いわての保健福祉支援研究会	感染症及び食中毒予防対策	介護員	佐々木要祐 畠山新二
9.26～28 10.11～ 12.23 ～26	岩手県社会福祉事業団	平成30年度岩手県認知症介護実践リーダー研修	ユニットリーダー	松澤祥司
10.19	中央ブロック高齢者福祉協議会	平成30年度中央ブロック高齢者福祉協議会新任職員研修会	介護員	畠山新二
11.26	いわての保健福祉支援研究会	平成30年度ケアマネ支援センター相談事例の内容紹介研修及び意見交換会	計画作成担当者	伊藤眞希子
31.1.22	岩手県福祉サービス運営適正化委員会	盛岡地域福祉サービス苦情解決情報交換会	管理者	小林日和
1.17	いきいき岩手支援財団	平成30年度岩手県高齢者権利擁護看護実践者研修	看護師	瀬川千鶴

31.2.19	岩手県認知症高齢者 グループホーム協会 盛岡第1ブロック	丹野智文氏講演会	管理者	小林日和
3.7	盛岡市保健福祉部介 護保険課	新人介護職員向け人材育成研 修	介護員	宇部孝史

〈内部研修〉

日時	テーマ	内部講師	参加者
30.4.15 4.20 4.25	バイタルサインの測り方・介護記録について	伊藤眞希子 (計画作成担当者)	5人
6.12. 6.20	食中毒、感染予防	小林日和 (管理者)	4人
10.15 10.25	外部研修報告会 認知症実践者研修	千葉佳子 (介護員)	15人
12.9 12.10 12.11 12.14 12.15 12.17	吐物処理の実演	佐々木要祐 島山新二 (介護員)	4人
31.2.19 2.27 2.28	急変時の対応	瀬川千鶴 (看護師)	4人
3.10 3.14	身体拘束せずに事故を防ぐ方法	小林日和 (管理者)	12人
3.23 3.29	身体拘束、虐待防止について	瀬川千鶴 (看護師)	11名

6. 運営推進会議の開催状況

日時	回数	出席者	記録 (議事録) の有無	会議の主な内容
30.4.16	第1回	GH施設長、GH管理者、GHケ アマネ、高松3丁目町内会長、民 生委員、盛岡駅西口地域包括セ ンター職員、入居者、入居者家族	有	GH活動報告 事業実施内容 今後の活動予定 各委員の意見集約等

		の計8名		
30.6.18	第2回	GH施設長、GH管理者、GHケアマネ、高松3丁目町内会長、盛岡市職員、民生委員、盛岡駅西口地域包括センター職員、入居者、入居者家族の計9名	有	GH活動報告 事業実施内容（入居状況） 今後の活動予定 各委員の意見集約等
30.8.20	第3回	GH施設長、GH管理者、GHケアマネ、高松3丁目町内会長、盛岡市職員、民生委員、盛岡駅西口地域包括センター職員、入居者、入居者家族の計8名	有	GH活動報告 事業実施内容（入居状況） 今後の活動予定 各委員の意見集約等
30.10.22	第4回	GH施設長、GH管理者、GHケアマネ、盛岡市職員、盛岡駅西口地域包括センター職員、入居者、入居者家族の計8名	有	GH活動報告 事業実施内容（入居状況） 今後の活動予定 各委員の意見集約等
30.12.17	第5回	GH管理者、GHケアマネ、民生委員、盛岡市職員、盛岡駅西口地域包括センター職員、利用者、利用者家族の計7名	有	GH活動報告 事業実施内容（入居状況） 今後の活動予定 各委員の意見集約等
31.2.18	第6回	GH施設長、GH管理者、GHケアマネ、高松3丁目町内会長、民生委員、盛岡市職員、盛岡駅西口地域包括センター職員、入居者、入居者家族の計9名	有	GH活動報告 事業実施内容（入居状況） 今後の活動予定 各委員の意見集約等

7. 防災の取り組み

<防災訓練実施状況>

30年7月6日	総合訓練（日中想定） 初期消火・通報・避難誘導 消火訓練（水消火器）	入居者 16人 職員 9人
8月31日	シェイクアウト訓練 （盛岡市主催）	入居者 18人 職員 9人
31年1月23日	総合訓練（夜間想定） 初期消火・通報・避難誘導・消火訓練	入居者 10人 職員 2人

8. 外部評価受審について

外部評価受審については、平成30年10月30日に評価実施機関である特定非営利法人いわての保健福祉支援研究会による評価実施を受審し指摘事項特になく、評価内容も良好であった。

9. 盛岡市介護保険施設等の実地指導について

平成31年3月4日に開所後初の実地指導が行われた。

課 題	利用稼働率の維持・向上			
取り組み方針	<ul style="list-style-type: none"> ・タイムラグの少ない施設入所を行うため、申込待機者リストの更新を常に行い待機者の動向調査を行う等管理を更に強化する。 ・入院者については、家族・協力病院と連携し、空所期間をできる限り短縮する。また、入院中の空所ベットを有効活用するため、今後は短期入所も検討していく。 ・特養さくらぎの里と居宅介護支援事業所、他事業所との連携を密にし、常時情報共有していくこととする。 			
指標（稼働率）	平成29年度 実績	平成30年度		
		目標値	実績	前期比
施設入所	99.4%	98%	99.2%	入院による退所者があったものの、関係機関への情報提供を重ねたことにより目標達成。